

## 各地の観察記録

### 続、尾岱沼のオオハクチョウ

1977年秋の渡来から1978年1月中旬  
までの生息状況中間報告

三 浦 二 郎

#### 1. はじめに

筆者は先に「尾岱沼のオオハクチョウ」と題して、1976年秋～1977年春の越冬状況について報告し、異常寒波年におけるオオハクチョウ越冬群の尾岱沼地区における状況の観察をまとめると共に、人工給餌の可否についてや保護対策についても言及し、また標識放鳥個体の追跡観察もつけ加えた。この報文は、勿論「野付半島総合調査」の一環としてまとめたものであり、本集録の前稿に組み込んであるが、それに先立って、本集録の発行以前に、一つには本研究会々員には報告書のサンプルとして検討用に、また一つには管内外の鳥類保護関係機関及びその従事者と鳥類の研究者に対し、別刷として配布・贈呈し、併せて「根室地方白鳥愛護会」への基金拠出をも訴えたのである。この報文の一部は、日本白鳥の会発行「日本の白鳥 第4号」にも紹介され、また基金拠出の訴えは、日本鳥類保護連盟発行「私たちの自然」に紹介され、全国からの反響があって驚かされた。

(拠出者は後に記して謝意を表する)

さて、本稿は1977年秋の渡来から1978年1月中旬現在までの生息状況を中間的にとりまとめて報告し、「野付半島総合第一次報告書」発表の一端を補うものである。当然、事情が許せば、4月末～5月上旬の渡去まで観察を継続するので、現在以降の状況については、後日機会を得てとりまとめたいと考えている。

今季の秋は、例年になく湿暖に経過したので、渡来群の動向についても特徴的なものが見られたし、1月になって寒波が襲来したが、中旬は今のところ温暖にもどっており、昨冬のような異常寒波になる徴候は少ないように思われ、彼等にとって平穏な越冬であってほしいと思う。

#### 2. 調査方法

観察調査の方法は前年と同じであるが、観察された地点のうち〔D-1 オンニクリ基部湿地帯〕では今季全く観察されず、ボンオンニクリ基部西側湾入部にしばしば見られたので、その地点を〔D-1〕とした。

#### 3. 調査結果

毎日の観察数を表にまとめて次頁以降に掲げ、前稿〔図1 尾岱沼におけるオオハクチョウ越冬群分布概念図〕の地域区分毎にもその生息分布を明らかにした。( )内は幼鳥数で内数である。+記号はカウント不能数を表わし、カウント数以上いたことを示している。

月日	曜	天候	風向 (差風°)	観測時間	A区 (イドテ系種を結ぶ以西の水域)						B区 (AECCBの中野)			
					1	2	3	4	5	6	1	2	3	
10-20	木	①	NW	10:00 12:00			45 (5)							
21	金	①	SW	6:25 6:45			70 (7)							
22	土													
23	日													
24	月	○	NE°	9:00 9:10			70 (?)							
25	火	◎	NNE	7:25 7:40		43 (4)	54 (18)							
26	水	◎	SSE	7:05 7:40		82 (11)								
27	木	○	SW	7:00~7:35										
28	金	◎	WSW°	14:00 14:30		6	81 (13)							
29	土	◎	WSW			79 (10)								
30	日	◎	SW	9:00 12:00		111 (18)								
31	月	①	SW	7:00~7:20										
11-1	火	○ ●	SW	7:10 7:20		72 (10)								
2	水	● ◎	NE°	12:00 12:10		78 (?)								
3	木	○	WNE	9:10 9:30		680 (?)								
4	金	○	NW	7:30 7:50		460 (?)	503 (47)	6 (4)						
5	土	○	SSW	7:00 7:30		12 (?)	645 (?)	121 (2)						
6	日	◎ ●	SW	8:00 8:15		637 (61)								
7	月	①	NW	7:00 7:15		511 (53)	212 (7)							
8	火	◎ ●	N	7:10 7:40		464 (27)	88 (5)	9 (5)	33 (6)					
9	水	◎ ①	NW	7:00 7:15		390 (?)	120 (8)	351 (7)						
10	木	○	SW	7:20 7:35		12	703 (?)	173 (15)	9 (4)					

て  
共  
吹  
目  
み  
ナル  
別  
報  
文  
本  
鳥  
る  
ま  
と  
4  
り  
ま  
た  
し  
こ  
な  
帯  
D  
冬  
群  
+  
記

C区 (新所ノ島以乗看現川までの水域)					D区 (半島オニワリ以東)				観察数 総計	標頭島	備 考	
1	2	3	4	5	1	2	3	4				
										45 (5)		半島全域調査 ビッチ・ダッチ
										70 (7)		トウキョウ・アライシキ
										/		航行の尺の尺測
										/		
										70 (?)		
										97 (22)		ハマシギ・タビシ コウガンズ
										82 (11)		前日午後17時迄 カウントし戻
										0		主域に白鳥なし ハマシギ・タビシ数ナ
										87 (13)		
										79 (10)		
										111 (18)		筑声しきり 半島全域調査
										0		筑声しきり
										72 (10)		筑声しきり
										78 (?)		筑声しきり
										680 (?)		知床連峯冠雪 通過群多し
										969 (54)		気温低下 湖面薄氷
										778 (24)		長低温とほる オンロフシタンオフ
										637 (61)		筑声しきり 白鳥風体1 湖面にク
										723 (60)		ハマシギ
										594 (43)		
										861 (154)		ハマシギ
										897 (194)	4-5に 標頭島1	凍結厳し ハマシギ

月日	曜	天候	風向	観察時間	A			B				
					1	2	3	4	5	6	1	2
11	11	金	○	NW								
12	土	○	WNW	7.00 7.15	21	216 (?)	155 (18)	30 (15)				
13	日	○	S	10.00 12.00	2	412 (73)		287 (27)				
14	月	○	NW	7.00 7.25	3+	514 (37)	96 (23)					
15	火	○	SW	7.10 7.30	4+	194 (?)	39 (1)	41 (9)				
16	水	○	W	7.00 7.20		361 (20)	248 (22)	65 (15)				
17	木	☉ ●	NNE NE°	7.10 7.30		205 (?)	185 (27)	131 (46)				
18	金	●	NE									
19	土	●	NE E°	7.10 7.30	15 (?)	344 (?)		144 (50)	151 (20)			
20	日	☉	O	8.00 8.30	8 (2)	427 (?)		210 (32)	152 (?)			
"	"	①	O	14.00 16.00	20 (11)	208 (36)			442 (48)			
21	月	① ●	SW	6.45 7.00	35 (16)	449 (40)		8 (4)	229 (37)			
22	火	① ●	SE S°	6.50 7.15	53	368 (?)		30 (15)				
23	水	☉	NW	7.15 8.30		99 (21)			535 (56)			
24	木	○	NW									
25	金	○	W	6.55 7.15	40 (15)	678 (59)		43 (8)				
26	土	① ☉	S	14.30 16.00		714 (104)			10 (4)			
27	日	☉	SE	8.00 10.00		387 (54)	40	192 (19)	27 (13)			
28	月	●	SE°									
29	火	○	NW	6.50 7.20	304 (?)	440 (?)		15 (3)				
30	水	① ⊗	NW	7.00 7.25	157 (?)	353 (?)	19 (7)	17 (7)				

C					D				観測数 総計	観測所	通 号	
1	2	3	4	5	1	2	3	4				
												欠測
										422 (33)		湖岸枯水
									3 (1)	704 (101)		半島全水調直 タンカウ 銃手じり
										613 (60)		気温上昇
										278 (10)		銃手
										674 (57)		
										521 (80)		
												終日冷雨欠測
										654 (50)		終日曇～雨
										797 (34)		銃手じり、物射 基EJ
					5 (4)	186 (7)				861 (106)		全水調直 タンカウ
										721 (93)		
										460 (15)		
										634 (77)		銃手じり
												旅行欠測
										761 (80)		
										724 (108)		湖岸枯水
					13 (8)	12 (1)				671 (95)		全水調直 タンカウ
												終日風雨欠測
										759 (15)		
										546 (14)		オジロワシ

※ 旬平均 10月下旬 64 11月上旬 629  
11月中旬 614 11月下旬 660

月日	曜	天候	風向	観測時間	A				E		B		
					1	2	3	4	5	6	1	2	3
12-1	木	○	W	7-00 7-15	107+ (?)	103 (?)	102 (16)	19 (?)					
2	金	①	NW	7-25 7-40	22 (9)	267+			79 (?)				
3	土	①	NW	7-10 7-30	17 (?)		341 (35)	6	13 (4)				
4	日	⊙	W	7-15 7-25	249 (?)	64 (?)	40 (9)		12				
5	月	⊙	SW	9-00 10-00		631 (41)				26 (?)			
6	火	①	NW	7-00 7-25	30 (?)	426 (?)			119 (?)				
7	水	①	NW	6-50 7-20	66 (5)	436 (65)	72 (10)	38 (10)					
8	木	①	WNW	6-50 7-30		90 (?)	59 (10)	43 (9)	215 (30)				
9	金	①	NW	6-40 7-30		78	533 (57)	14 (2)	42 (4)				
10	土	○	NW	6-50 7-30			618 (70)		139 (12)				
11	日	○	WNW	11-00 12-00		10 (4)	726 (52)						
12	月	①	○	6-50 7-15		25 (2)	338 (46)		240 (9)				
13	火	⊙ ●	SE	6-50 7-20			281 (21)		267 (32)				
14	水	①	N	7-00 7-15			253 (42)		37 (1)				
15	木	⊙	W	7-00 7-20		273 (14)	145 (15)		101 (16)				
16	金	⊙	W	7-00 7-20		504 (14)	132 (25)						
17	土	●	S°										
18	日	①	NE										
19	月	①	NE										
20	火	①	W	7-00 7-30	9	23	632 (37)		84 (8)				

C					D				観測数 累計	観測局	備 考
1	2	3	4	5	1'	2	3	4			
									3314 (23)		視界不良 夜気温上昇
									3671 (16)		朝気温低下 カモメ大群4-3
									377 (48)		カモメ大群A-2
									365 (13)		川に薄氷
					52 (25)	27 (10)	14 (1)		750 (84)		ワカウー青湖西日 全域結霜
									575 (?)		河岸薄氷 当夜川河口に探検者
									612 (90)	ホシニギ 沖に1羽	川面薄氷
									407 (49)		湖岸薄氷 オジロシ
									667 (63)		湖面結氷相まる 鏡氷あり
		4 (2)							761 (84)		結氷面積大 オオワシ・オジロシ
									736 (56)		全域結霜
									653 (67)		
									548 (53)		湖極凍結
									294 (43)	日本ビフ沖 に1羽	全道的に気温 上昇
									519 (45)		全 上
									636 (39)	日本ビフ沖 に1羽	全 上
											旅行先湖
											〃
											〃
									748 (45)		渡船航路の氷の 小群移動

※ 田平町 12月上旬 521. 12月中旬 591.

月日	曜	天候	風向	観察時間	A				B		C	
					1	2	3	4	5	6	1	2
21	水	○	NW	10-05 10-15			557 (43)	18 (4)				
22	木	①	NW°									
23	金	①	NW	15-00 15-10	32 (5)	20 (4)	979 (52)	136 (14)	15			
24	土	○ ⊗	NW	7-00 7-30			840† (63)		2			
25	日	⊙	○	9-30 10-30		56 (3)	485 (64)		382 (47)			
26	月	⊗	NW°									
27	火	⊙	NNW	12-00 12-25	201 (15)	329 (14)	71 (7)		97 (20)			
28	水	○	NW	9-00 9-20		19 (2)	573 (28)		400† (23)			
29	木	○ ⊙	W	10-40 10-50			86 (8)		510†			
30	金	①	NW	11-05 11-35			347 (19)		12			
31	土	⊙	WSW	9-30 10-05		37 (6)	6 (1)			723†		
1978 1-1	日	⊗ ○	W									
2	月	○	NW	9-00 9-30		190 (12)	145 (12)		370 (20)			
3	火	①	○	12-45 13-50		371 (15)	225 (15)			3		
4	水	○	NE	9-10 10-20						205		
5	木	①	W							42 (3)		6
6	金	①	W	10-20 11-00								137
7	土	○	W	10-00 10-25								
8	日	①	W	15-00 15-30								3
9	月	⊙	NNE	11-30 11-50								
10	火	⊙	NNW W°	11-00 11-15								



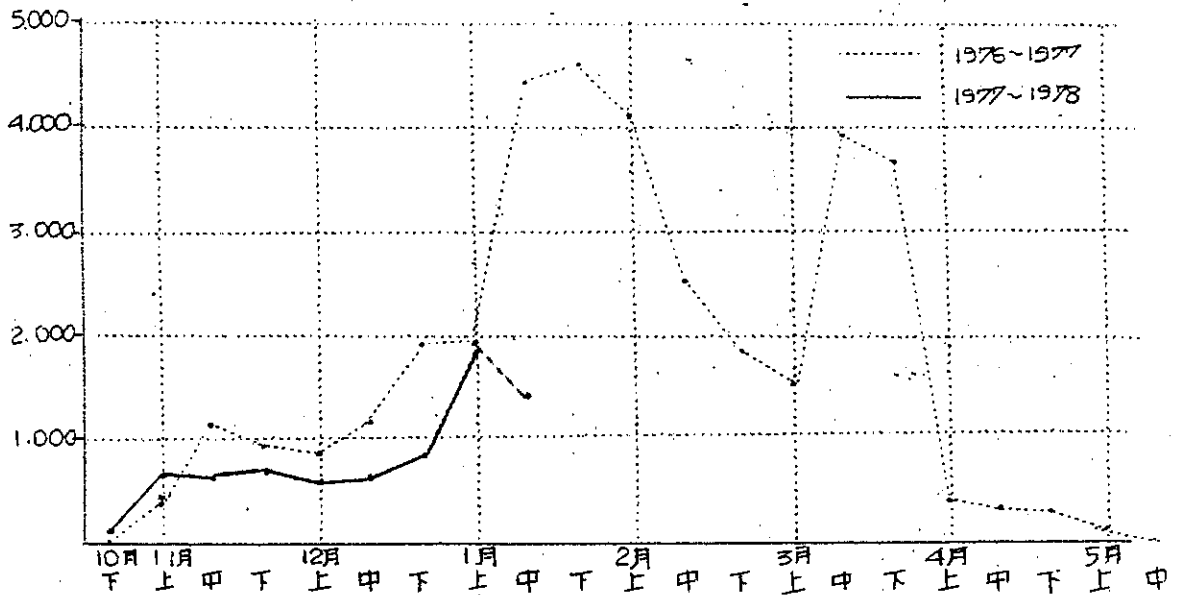
C		E			D				観測本 統計	標高	備 考
1	2	3	4	5	1	2	3	4			
									575 (47)		
											強風の為又測 厚雪 吹雪
									1,182 (75)		
									842+		休職中なのでカフト 下正確. 氷面拡大
									923 (84)		全道内氷温上昇 枯水面拡大とある
											取雪の為又測
									698+		雪をたれて速木の 観測不能
									992+		A区ほぼ全面枯水 僅かに凍水面と枯水
									596+		氷温上昇するも 枯水面広がる
			76 (7)						435 (26)		香別川河口に初めて 凍る. 観測不能
									766+		A区全面凍結
											薄雪10cm 又測
									705 (41)		
	7 (2)	197 (19)							803 (51)		
		234 (17)	-	+	+				439+	1011 (C-3)	降雪不良. 分都群の カフト不能
7	2050	1,137		4					3,266 (5+)	1011 (C-3)	凍来数値は 各地の潮沼凍結か
	405 (28)	1,258 (96)							1,800+	1011 (C-3)	管内ほぼ全面 枯水
			1755 (103)	519 (60)					2,274+	C-5に1例	全 上
		74 (16)	2,370	57					2,504 (16+)	この奥 1029 異常 なため	日中融け多かつた 様様.
	2520	10 (3)							2,530+	103(?)	時々小雪降雪不良 枯水面とある
135 (16)	216 (9)		2,130 (61)						2,481 (86)		枯水面拡大 後の凍結が外へ

同平均 12月下旬 779 1月上旬 1867



C			E		D				観察数 総計	家数	摘要
1	2	3	4	5	1	2	3	4			
		157 (19)		401 (35)					1,428 (54)	IC11	気温上昇 材ワシカシ
	146 (23)	803 (48)	95 (5)	+					1,004 (76)	IC43	小島の木の根付 積雪10cm
10 (2)	1780 (95)								1,980 (97)	IC11	気温上昇 新降ノ氷凍結
11		138 (16)		20 (4)					1,272 (20)	IC11	アガラシ氷に なる
6 (1)	361 (57)		130	610					1,797 (88)	IC11	アガラシ30 氷凍結 氷凍結
145 (16)	110 (13)	282 (18)		360					1,209 (62)	IC11	小島の移動多し
10 (2)		500 (56)		3					1,100 (66)	IC11	氷凍結 積雪
231 (23)	77 (14)	1080 (69)	106 (1)	210 (?)					2,071 (107)		日中気温上昇

次に昨季との同時期との渡来数の比較を下図に示す。(同平均観察数)



図に示す限りでは、カーブの出来方については大差がないが、全体的に昨季よりも下廻っているが、これは前述のように、温暖に経過したため、隣接の渡来地に滞留しているものが多く、決して、全体の渡来数が少ないからではないかと思うが、もう一つの要因について次項で述べる。

#### 4. 考察と保護対策

- (1) 国道 244 号の道路以東の沿岸及び水域は鳥獣保護区または銃猟禁止区域にすべきである。

本研究会 51 年集録（通巻第 4 号）の表紙に掲げた写真「うどんをすするようにアマモを食べるオオハクチョウの親子」の原板は、昨季 1976 年 11 月、国道 244 号トビカリ川を渡ってやや北上した日本ビーフ入口の湖岸で撮影したものである。この時の状況は、この採餌のようすを撮影するべく、400 ミリ望遠レンズをかまえて湖岸に進んだものであるが、一旦人の姿に驚いた彼等はやや岸を離れはしたものの、立木に寄る筆者に危険を感じなくなったのか、再び岸辺に接近し、400 ミリの焦点距離内にまで来るようになったのであわててシャッターをおしたものである。つまり昨季は、自然採餌の場合でもさほど人を怖れることはなかったのである。

ところが、今季は早朝のカウントで、この水域に居ついているものがあったても、車を停めて車外に出ただけで、早々に岸から遠のくか、激しく飛去し、昨季のような悠然たる採餌行動を観察させてはくれなくなった。つまり非常に警戒心が強まってきたのである。この最大の要因は、狩猟者による発砲である。今季の観察記録の摘要欄に「銃声しきり」とあるは、この地帯での発砲の場合がかなりある。その記録は、岸辺に散乱する糞きょうである。

トビカリから、当幌川河口までは、アマモの密生地で、オオハクチョウにとっては絶好の採餌場所であると共に、漁業者の漁船の発着基地でもある。早急な措置を望むものである。

尚、D-1 区オンネオンニクリ基部の湿地及び水路は、かつてかなりの数のオオハクチョウ及びカモ類の採餌地であったものが、今季の観察では 1 羽も見られなかったのは、同じく狩猟者をおそれたものであろう。また、11 月 6 日、湖面に浮くオオハクチョウ死体が観察されたことは、胸のいたむことであった。この日は、狩猟者の入り込みの特に多い、日曜日の朝のことであった。

- (2) エキタラウス以東の半島先端部も同様に「銃猟禁止区域」に指定すべきである。

夏期中、トドワラ入口駐車場から先端部への一般車の乗入れは厳しく規制されている。これは一つには、自然景観保護のための植生の保護を目的としたものである。狩猟者が、凍土になって道路外のどこでも走れるようになった時季に車を持ち入れることは、上記の目的からもはずれることである。今季、トドワラ、ボッコ沼、基地前浜でのオオハクチョウカウント数の減少は、狩猟者入り込みの増加によるものであることは明らかである。

- (3) 春別川河口域の観光客の規制について

オオハクチョウと人間とのほおましい交歓の場である川口浜辺にまで、車で乗り入れる者があることについて、規制措置を望むことは昨季の報告でも強調したことであるが、何らの措置が講ぜられず、今季はそこに売店まで建っているのに全く放任されている。

- ◎ これらの状況について適切な措置が講ぜられなければ、やがて「白鳥の湖」の名を返上する時が到来するであろうことを強く指摘するものである。